

友の会による 会話パートナーの養成

よっかいち失語症友の会

会長 堀本 一治

会話パートナー 石崎 さとみ

2008.6.7 失語症者のつどい全国大会三重(四日市)大会 シンポジウム
「失語症会話パートナー養成の現状と課題 全国への波及と制度化を目指して」

発表者自己紹介

- 堀本 一治
(当事者)



平成8年 脳出血発症
失語症に
平成9年 友の会入会
平成15年 会長就任

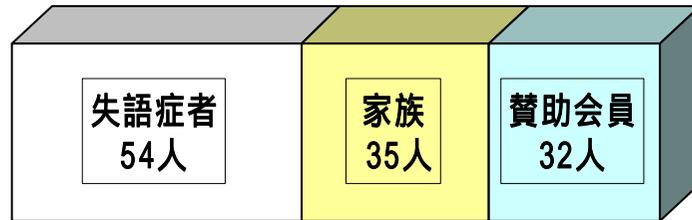
- 石崎 さとみ
(会話パートナー)



平成14年 夫が脳梗塞で倒れ、失語症を知る
平成16年 友の会 入会
同年11月 会話パートナー養成講座受講、以後会話パートナーとして活動

友の会の紹介

□会員構成



□当事者言語症状



□当事者移動手段



□活動

定例会、役員会(1回/月第一日曜日)

発送事務作業 (1回/月)

日帰り旅行 新春の集い

四身連関連行事 総会 失語症セミナー など

□特徴

当事者とボランティアが主体的に
運営活動

四身連に所属 他障害者団体と活動

定例会に参加する当事者は比較的
失語症状軽症者が多い

友の会の役割

□ 会員相互の交流

精神的な安定

役割を担うことによる自信回復

他の失語症者を見て先行きに希望を抱く

□ 社会への啓蒙活動

地域の方々に理解を深めて頂く

個人の問題を社会の問題にする

□ 介護者の精神的安定

四身連(四日市市身体障害者団体連合会) について

四日市市身体障害者団体連合会

□6つの障害者団体で構成

□障害者福祉の向上、社会の啓蒙活動、当事者交流、活動など

□四身連ホームページアドレス
<http://www.ctynet.ne.jp/~ysr/index.html>

視覚障害者協会

ろうあ福祉会

肢体障害者福祉会

車いすの会

内部障害者福祉会

失語症友の会

四身連に所属していることで

- 失語症を障害者問題として共に考え、
社会へ訴える大きな力となっている
- 19年度の四身連活動方針の6項目中2項目が
失語症に関する事項
- 四身連の会議に失語症者が会話パートナーと共に出席の際、
四身連から会話パートナーに交通費程度の助成あり

養成講座開講の経緯 1

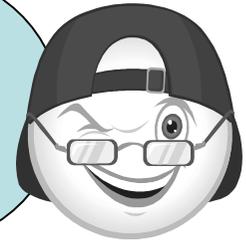
- 1 平成12年度友の会 スローガン
「失語症者のコミュニケーション援助者の派遣制度の確保」

方法は？



- 2 平成14年第20回全国失語症者の集い 東京大会へ参加
「言葉のバリアフリーを目指して」

これだ!!



- 3 行政への訴え 平成15年 四日市市障害者大会
四日市市障害者福祉計画施策推進協議会
市民への失語症に関する啓蒙
コミュニケーション環境の整備
失語症会話パートナー養成講座の開講
を各方面へ訴えた。しかし...



決議時の様子

- 写真

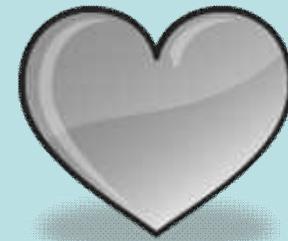
養成講座開講の経緯 2

- 4 平成15年年度 友の会総会 「会話パートナー」「要約筆記者」
失語症者のためのコミュニケーションバリアフリーツールについて検討
「失語症会話パートナーの養成のための活動」決議

- 5 自分たちで養成しよう!!
資金集め 講師の依頼 会場準備 受講生の募集 広報活動

養成の目的

- 1.友の会で活動するパートナーを！
- 2.失語症の理解を広めよう！



友の会の言語聴覚士、家族、当事者が協力し準備期間2年をかけ開講へ

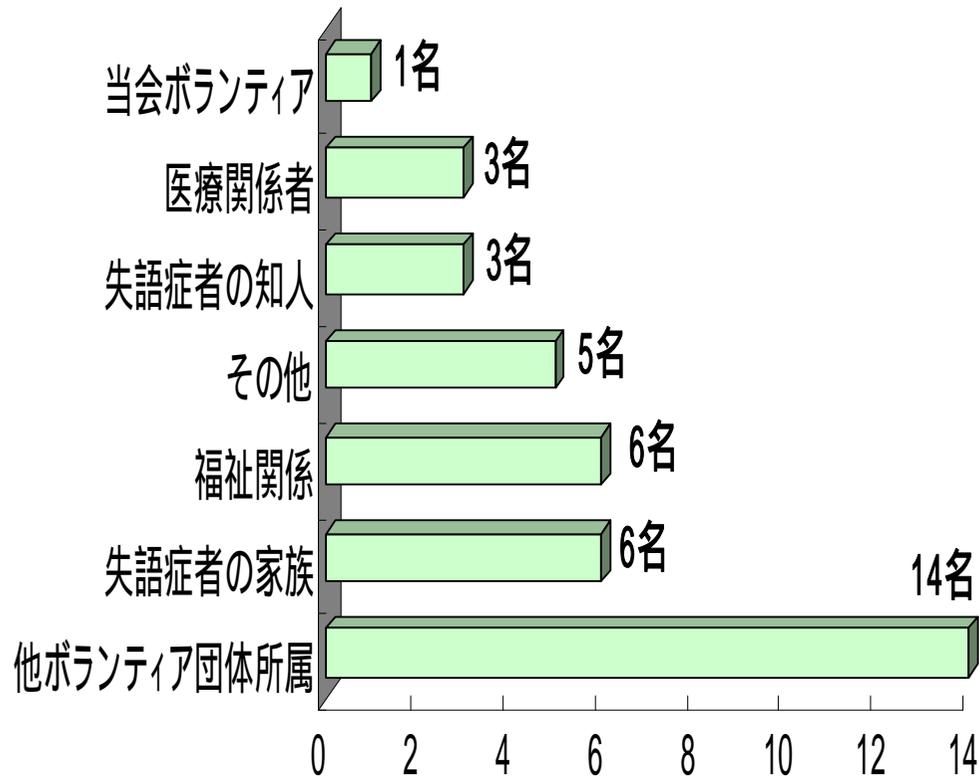
開講の年譜

- | | | |
|--------|-----|---|
| 平成15年度 | 4月 | 総会で「失語症バリアフリーのための活動」を採択
「会話パートナー」についての啓発活動 |
| | 5月 | 東京都地域ST連絡会・失語症会話パートナー
養成部会(現NPO法人和音)に講演を依頼 |
| | 3月 | 友の会主催「失語症セミナー」開催 |
| 平成16年度 | 4月 | 総会で「失語症会話パートナー養成講座」の開催
を採択 |
| | 7月 | 友の会会員・家族にアンケート実施 |
| | 9月 | 友の会主催「失語症セミナー」開催 |
| | 11月 | 第一回会話パートナー養成講座 開講 |
| 平成17年度 | 7月 | ステップアップ講座 |
| 平成18年度 | 6月 | フォローアップ講座 |
| | 12月 | フォローアップ講座 |

養成講座の実際 1

□ 受講者数と構成

38名(女性35名 男性3名)



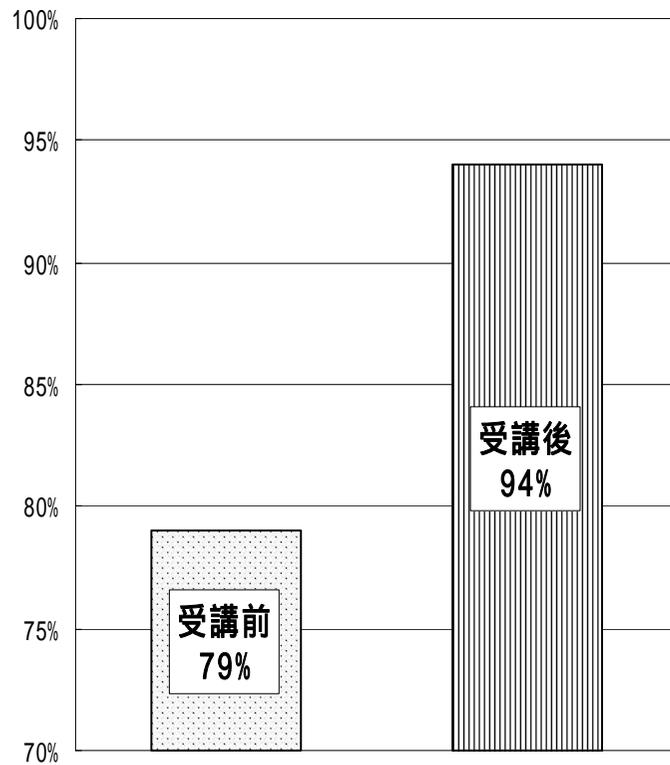
□ 講習と演習内容

講習会	1回	5時間
演習	3回	11時間
全体反省会	1回	3時間

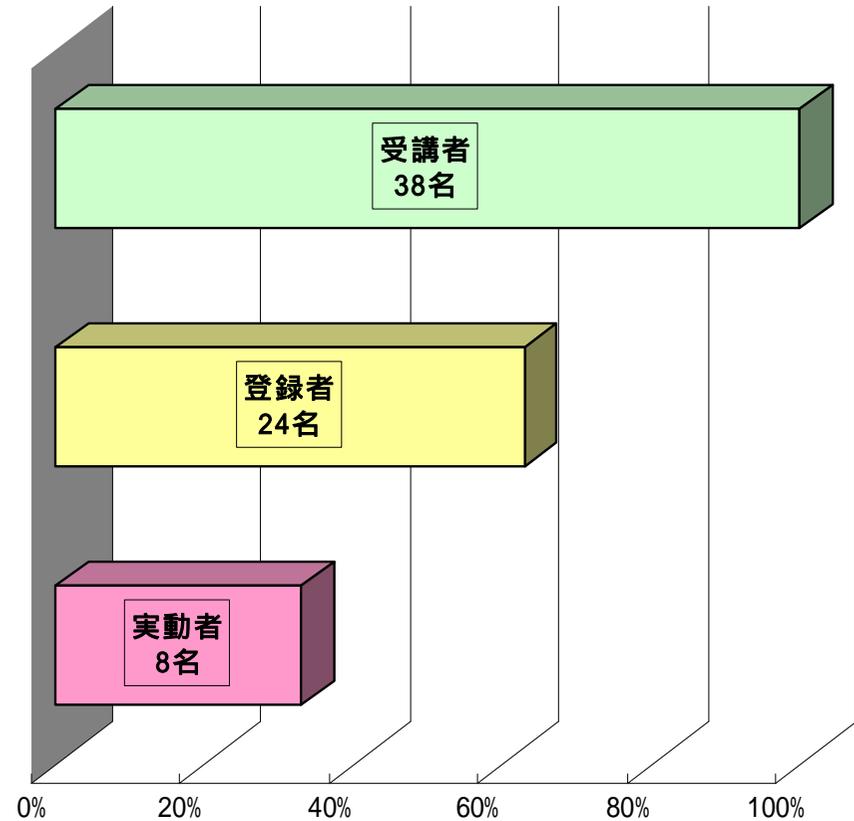
養成講座の実際 2

□ 受講前後の変化

失語症の知識20問 × テスト正答率



□ 受講者数と登録者数と実動数



受講者の声

□ 受講前

- ✓ 話が理解できても会話することが困難
- ✓ ことばを忘れている
- ✓ アルツハイマー症の人をイメージしてしまう
- ✓ 暗い 引きこもり
- ✓ 美智子様が失語症だったと聞いたことがある

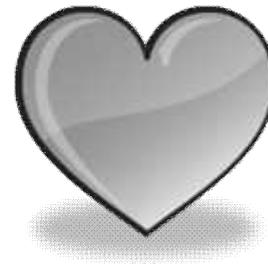


など

□ 受講後

- ✓ 話すことだけではなく、色々な症状があると知った
- ✓ わかった分、関わり方に不安がでてきた
- ✓ 「待つ」大切さがわかった
- ✓ 地域社会の啓蒙が必要

など



養成後の活動の様子

- 写真

会話パートナーの声

講座だけでは、
実際の対応が
わからない
と思った

失語症の方と
長時間
活動を共にして
初めて
実生活での
会話の苦勞が
わかった

会話パート
ナーを必要とし
ている人は、
友の会の外に
いるのでは？

養成後の変化

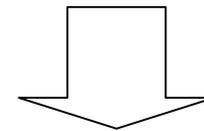
友の会では

会員がいきいき
笑顔、発話が
増加(^^)

ボランティア
だった会話
パートナーも
自信がついた

家族も会員の
活気に
(^^)

受講者に福祉、医療
関係者が多かった



友の会外での失語症
に関する理解、援助
の輪が広がった

(^^)

友の会の外では

養成を通してみえたこと

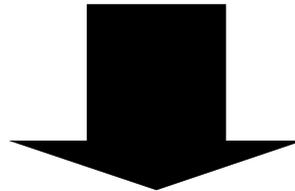
- 会話パートナーは、失語症者のコミュニケーションバリアフリーに不可欠
- 啓蒙啓発を継続 活動することの大切さを実感
既存の要約筆記制度に失語症も
行政から市の広報に「失語症を取り上げたい」
各方面へ理解が少しずつ広がっていている？
- 会話パートナー養成にはSTの協力が不可欠



まとめ

友の会で

**継続した啓発活動を実施
会話パートナーの養成を行った**



- 友の会活動内のバリアフリーの一助となった
(活動の対象者、活動範囲は限定の養成)
 - 友の会外でも波及効果があった

課題

□個人派遣のニーズへの対応

□継続的な講座の開設 受講者のフォロー



□行政にさらなる支援法を考慮いただけるよう
活動を継続(市民サービスレベルでの対応 行政による
養成講座の開講を強く願う)

□言語聴覚士の積極的なかわり

最後に...

聴覚障害者 手話通訳者の派遣
視覚障害者 ガイドヘルパーの派遣

が制度化されている

失語症者には??



行政(地域生活支援事業)による



会話パートナー養成の制度化実現を!!